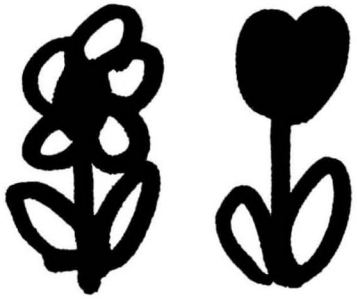
## 3　検証結果

私たちは子どもたちが「人」「もの」「自然」とかかわる姿，かかわりによって育まれる体験，目指す姿について年齢ごとに捉え（Ｐ４～６），研究を進めてきた。子どもが自分らしさを発揮できるようになるまでに保育者としてどのように援助していけばよいか，どのような環境構成の工夫・改善が必要かなどについて実践を通して検証してきた。

本年度，「自然」とのかかわりを中心に研究を進め，私たちは初めに捉えていた年齢の姿を整理し，具体的な保育者の援助の在り方や環境構成の工夫・改善について追究してきた。研究を進めるうちに，子どもたちは同じ「自然」（例えば風など）とかかわっていても，年齢ごとにかかわり方は違っていて，年齢が進むにつれてかかわり方が広がっていくことが分かった。

このようなことを踏まえ，次のページからは，以下の視点で検証結果をまとめてみた。

○　「自然」とのかかわりの中で見られた子どもたちの姿
○　自分らしさを発揮するための保育者の援助の在り方
○　自分らしさを発揮するための環境構成の工夫・改善



## ○ 「自然」とのかかわりの中で見られた年少児の姿

気付く　自然への親しみ　満足感　感動体験

葛藤　試行錯誤　自分を出す　自信

自立心

○ 保育者や友だちに親しみ，好きな遊びを楽しむ。
○ 自分の思いを素直に出す。
○ 集団生活での生活の仕方を知る。

ものとかかわる楽しさ　想像力

安心感　達成感　体を動かす楽しさ

人とかかわる楽しさ

〔自然〕

○ 様々な「自然」と出合う。
○ 様々な「自然」に親しむ。
○ 様々な「自然」とのかかわり方を知る。

○ ウサギやニワトリなどを見たり，えさをあげたりする。
○ 草花を見たり，摘んだりする。
○ 風の心地よさを感じる。

○ 花や野菜の種を蒔き，様子を見たり，水を掛けたりする。
○ チョウやダンゴムシなど見たり，捕まえようとしたりする。
○ 雨の日や雨上がりの園庭の様子を見たり，雨の音を聞いたりする。
○ 水の心地よさを感じる。
○ 入道雲を見たり，木陰の心地よさを感じたりする。
○ 野菜を収穫し，味わう。
○ チョウやバッタ，エビ，オタマジャクシなどを見たり，捕まえようとしたりする。
○ セミやスズムシの鳴き声を聞く。
○ 園庭の木々の様子を見る。
○ 木の実や落ち葉を拾ったり，遊びに使ったりする。
○ 氷や霜柱を見たり，霜柱を踏む感触を味わったりする。
○ 日だまりの暖かさを感じる。

○ 四季折々の行事を通して季節の移り変わりを感じる。
・ 焼き芋やおにぎりパーティー，節句，餅つき大会などの行事にかかわる。

○ 目に見えないものと対話する。
・ ぶらんこやグローブジャングル，風車，凧などで遊ぶ中で風の動きを感じる。

## ○　年少児が自分らしさを発揮するための保育者の援助の在り方

### 例１　「自然」の面白さや不思議さ，すごさなどをよりよく味わえるように一緒に感じたり，試したりして共感していく。

多くの子どもたちが初めての園生活を楽しむ年少児。「人」や「もの」と同様，見るもの，聞くもの，嗅ぐもの，触れるもの，味わうもの等，何もかもが新鮮で，目をきらきらと輝かせながら感動を言葉や体で表現します。「ミミズに目があるのかな」と考えてみたり，桜島の噴火に「怒ってるのかな･･･」と恐れを感じたり，真っ白な雪を氷にのせると透明になっていく様子に不思議さを感じたりと，様々な自然とのかかわりの中で心を揺り動かされています。「そうだよ，そうだよ」と頷くのももちろんですが，その感動をより深め，心に残るものとしていくために，多様な一人一人の感じ方，楽しみ方を共感的に受け止め，一緒に考えたり，思いをめぐらせてみたり，一緒に試してみたりするなどして，じっくりと保育者や友だちと共感し，共有していく場面を大事にしたいです。

### 例２　繰り返しの経験を大事にする。

初めての集団生活，「人」「もの」同様，幼稚園には魅力的な「自然」がたくさんあります。

様々な「自然」とかかわって過ごす中で，ミミズやダンゴムシをぎゅっと掴んだり，捕まえたエビやオタマジャクシを素手で持ち運んだりして，ドキッとさせられる場面も少なくありません。こうした経験も含めて，繰り返しの経験を大事にしたいと考えます。そこには「目，あるのかな」「先生，捕まえたよ！」など，興味をもってかかわる姿があり，不思議に思ったり，その喜びを伝えたいと，心が揺り動かされていることに違いはありません。保育者自身が胸を痛めつつ，子どもたちのそうした気持ちを受け止め，「ミミズさん，『痛い』って言っているかも」「え～っ！エビさんお水が無くて苦しかったね。ごめんね」とその都度，保育者自身の気持ちを伝えて，子どもたちなりに少しずつ「命」についても何か感じていってほしいと思います。

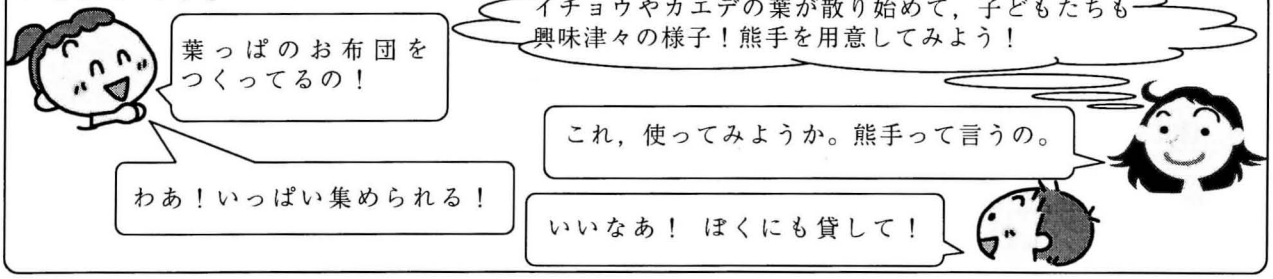
かくれんぼをしているときに，アラカシの後ろに隠れた子どもがいました。そこは，日頃から繰り返しアラカシ集めを楽しんでいた場所です。こうした繰り返しの経験があったからこそ，かくれんぼの隠れ場所として遊びが広がっていったのでしょう。

## ○　年少児が自分らしさを発揮するための環境構成の工夫・改善

### 例　「自然」そのもののよさを十分味わえるような環境を工夫する。

自分の好きな遊びを見付けて遊ぶ年少児。「葉っぱの雨が降ってる！」「葉っぱのお布団にしよう！」「赤大根(二十日大根)，白い！」と，様々なことに心が揺さぶられ，その感動を保育者や友だちに話す姿が多く見られます。子どもたちの遊ぶ姿に寄り添いながら，熊手を用意したり，身近な場所に二十日大根のプランターを置いたりするなど，環境を工夫することで，一層，遊びが充実したものとなるようにしたいです。

子どもたちと落ち葉の布団にごろんと寝転がると，木漏れ日がまぶしくて，「葉っぱと葉っぱがきらきら光っているよ」とある子が言いました。そうした感動を大事にしていきたいです。



## ○ 「自然」とのかかわりの中で見られた年中児の姿

気付く　自然への親しみ　満足感　感動体験

葛藤　試行錯誤　自分を出す　自信

自立心

○ 友だちと一緒にいろいろな遊びを楽しむ。

○ 思ったこと感じたことをのびのびと表現する。

○ 集団の中での基本的な生活習慣・態度を身に付ける

想像力

ものとかかわる楽しさ

創造力　達成感　伝え合い

人とかかわる楽しさ　体を動かす楽しさ

〔自然〕

○ 様々な「自然」に興味をもってかかわる。

○ 「自然」の不思議さや面白さを感じる。

○ 園庭の草花や小動物を見たり，触れたりして親しみをもつ。

○ 一人一鉢の花の世話を進んでする。

○ 生き物や植物の成長の様子に気付き，興味をもってかかわる。

○ セミやスズムシの鳴き声を聞く。

○ 草花を摘んでいろいろな遊びに使う。

○ 戸外での遊びを通して初夏の自然に親しむ。

○ 芋の苗植えや野菜の種蒔きをし，野菜の世話をしながら成長に気付き，収穫を楽しみにする。

○ 雨の日や雨上がりの園庭の様子を見たり，傘をさして散歩をしたりしながら，雨の音の面白さや不思議さを感じる。

○ 水の感触を味わいながら水遊びを楽しむ。

○ 自分たちで育てた野菜の収穫を通して，自分たちで育てた野菜の成長を喜び，調理したものをみんなで食べる機会を楽しむ。。

○ 芋やミカンの収穫や世話を通して，季節を感じ，いろいろな食材に興味・関心をもつ。

○ 季節の移り変わりを肌で感じる。

○ 草花や落ち葉，木の実などを拾ったり集めたりして遊びに取り入れる。

○ 吐く息が白いことに気付き，空気の冷たさを感じる。

○ 氷や霜柱を見付けて，霜柱を踏む音を聞いたり，氷の冷たさを感じる。

○ 日だまりの暖かさを感じる。

○ 四季折々の行事を通して季節の移り変わりを感じる。

・ 焼き芋やおにぎりパーティー，節句，餅つき大会などの行事にかかわる。

○ 目に見えないものと対話する。

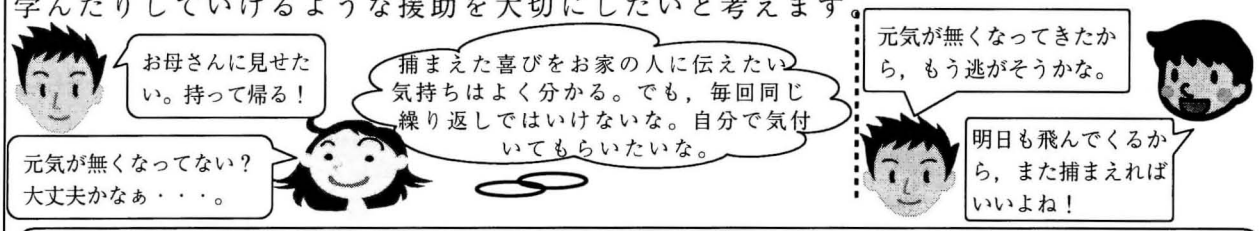
・ 紙飛行機や風車，凧などを使って遊ぶ中で風の向きを考える。

## ○　年中児が自分らしさ発揮するための保育者の援助の在り方

### 例１　自分で試した経験から，気付いたり，学んだりしていけるような援助をする。

園庭の虫捕りや池のエビ捕りを楽しむ子どもたち。最初の頃は，捕まえたことがうれしくて「お家に持って帰る！」と，虫かごで大切にする姿が見られました。しかし，降園する頃には弱ったり，死んだりしてしまいます。その後も「今日は大丈夫！」「死なないよ！」と言う日が続きました。しかし，何回か繰り返すうちに，生き物の命について年中児なりに考えられるようになってきました。

保育者として，子どもたちの「持って帰りたい」「大丈夫なんだ」という思いを大切にしながら，「バッタさん，元気が無くなってきてない？昨日は元気が無くなってどうなったかな」などの言葉掛けをして，子どもたちが自分で試した経験から，気付いたり，学んだりしていけるような援助を大切にしたいと考えます。




### 例２　気付いたことや感じたことを伝え合う姿を見守る。

１学期にクラスでピーマンの苗を育てました。毎日畑に水掛けに行きながら，苗の様子を観察し「僕の身長位になってきたね」「ピーマン（の苗）に白い花が咲いているよ」「花の色は実とは違う色になるんだね，どうしてだろう」など，自分が気付いたことや感じたことを言葉にして，友だちや保育者と伝え合うようになりました。

保育者として，子どもたちのやり取りを見守ったり，子どもの気付きを他の子どもにも広げることができるように言葉掛けを繰り返したりしながら，不思議さや面白さを存分に味わってほしいと思います。子どもたちの好奇心がさらに広がるように，気付いたことや感じたことを伝え合う姿を見守るようにしたいです。

## ○　年中児が自分らしさ発揮するための環境構成の工夫・改善

### 例　「自然」を身近に感じ，興味・関心がもてる環境をつくる。

子どもたちは，ヤマモモ，ミカン，クヌギなどの実を収穫して食べたり，拾って遊びに使ったりしながら季節を感じています。年少での経験がある子どもたちは，「ミカンがなってるよ」「見付けたクヌギを使ってお料理しよう」と，自ら自然とかかわって，楽しく遊ぶ姿が見られますが，なかなか気付かない子どももいます。

保育者として，一緒に探しに行くこともしますが，子どもたちが見付けたものを降園時に紹介したり，保育室やテラスに簡単な展示コーナーを設けたりなどの工夫をしています。言葉だけでなく，実際に目にしたり，触れたりできるようにしておくことで，身近に感じたり，興味・関心がもてるようです。そして，実際に自分で見付けて，触れたときに生まれる「気付き」「感動」「自然への親しみ」などの体験を大切にしたいです。

今後も写真や図鑑を用いるなど，さらに環境つくりを工夫していきたいです。

## ○ 「自然」とのかかわりの中で見られた年長児の姿

気付く　自然への慈しみ　満足感　感動体験

葛藤　試行錯誤　他者理解　自信

自立心

自律心

苦痛

想像力

創造力　達成感　伝え合い

充実感　体を動かす楽しさ

年長児としての自覚

○ 友だちと協力して，遊びを工夫する。

○ 思ったこと感じたことを豊かに表現する。

○ 集団生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

〔自然〕

○ 様々な「自然」に興味をもってかかわる。

○ 「自然」の不思議さや面白さを味わう。

○ 野菜や花の世話をしたり，花を摘んだり，虫を捕まえたり，虫の鳴き声を聞いたりするなど，身近な自然に興味をもってかかわる。

○ 様々な果実を収獲し，友だちと一緒に食べながら自然の恵みに感謝する。

○ 風の心地よさを感じながら体全身を使って遊ぶ。

○ 雨の日や雨上がりの天候を感じたり，雨に親しんだり，雨の音を聞いたりして，それに合わせた生活をする。

○ 芋の苗植えや芋掘りを体験し，成長の様子に関心をもち，成長を楽しみにする。

○ 米つくり体験をし，普段食べている米がどのようにしてできているのかを知り，成長を楽しみにする。

○ 各季節に出合える生き物（雨の時期はカタツムリなど）がいることを知り，生き物について絵本や図鑑で調べたり，実際に探しに出掛けたりする。

○ 育てた野菜の食べ頃を知り，色や大きさを見ながら収獲して食べる。

○ 季節の移り変わりを肌で感じる。

○ 草花や木の実を遊びに取り入れる。

○ 芋や米，ミカンなどの収獲を通して，実りの秋を感じたり，食べることで自然の恵みに感謝したりする。

○ 霜柱を見付けて，踏む感触を味わったり，気温の変化を利用して氷をつくろうとしたりする。

○ 日だまりの暖かさを感じながら，自分たちの遊ぶ場所を選ぶ。

○ 四季折々の行事を通して季節の移り変わりを感じる。

・ 焼き芋やおにぎりパーティー，節句，餅つき大会などの行事にかかわる。

○ 目に見えないものと対話する。

・ 紙飛行機や風車，凧などを使って遊ぶ中で風の向きを考え，試す。

## ○　年長児が自分らしさを発揮するための保育者の援助の在り方

### 例１　これまでの経験を生かし，さらにかかわりが広がるような援助をする。

年長児になると，年少児，年中児の頃の経験を生かして，自分たちで遊びを進めるようになります。これまでかかわったことのある身の回りのものを，自分たちの遊びに必要なものはどれか選択して遊びの中に取り入れ，友だちと一緒にアイデアを出し合いながら遊びを楽しみます。

ドングリや落ち葉などの秋の収穫物が多くなってきた時期，子どもたちはレストランごっこを始めました。自分たちで必要な道具（皿や洗面器，スプーン，水など）を用意して，クリスープ，ドングリケーキなどたくさんの料理をつくる子どもたちの仲間になって保育者も加わり，遊びを楽しみながら言葉掛けを模索していました。しばらくして，子どもたちから「秋のレストランって名前にしたらいいんじゃない？」という声が聞こえてきました。つくることを存分に楽しみ，さらにレストランとして遊びを広げたかったのでしょう。今回は，お客さんがやって来たらもっと遊びが盛り上がるのではないかと考え，言葉掛けをしてみました。子どもたちが今楽しんでいることを見取り，さらに「他」とのかかわりが広がるような援助を心掛けたいものです。

### 例２　数量や図形などに関心をもつことができるような言葉掛けをする。

子どもたちは日常生活の中で，数を数えたり，様々な形に接したりする体験をしています。このような子どもたちに対して，保育者は，数量や図形についての知識だけを単に教えるのではなく，多様な体験を積み重ねながら子どもたちが数量や図形に関心をもつことができるような援助を大切にしたいものです。

例えば，ミニトマトを育てる中では，花が咲き終わり，小さな実が少しずつ膨らんで，緑色からだんだんと赤くなっていく様子や，茎がどんどん伸びていき，自分たちよりも大きくなっていく様子などを子どもたちと一緒に見ながら，数量や図形を意識した言葉掛けをしてみてはどうでしょう。育てて収獲できた喜びと同時に，子どもたちに感じてほしいこと，気付いてほしいことはたくさんあります。

## ○　年長児が自分らしさを発揮するための環境構成の工夫・改善

### 例　自ら探究心をもってかかわることのできるような環境構成を大切にする。

年長児になると，「これはどうしてこうなるの？」「何でだろう？」「これなあに？」などと身近なことに対して，たくさんの疑問をもつ姿がこれまで以上に見られるようになります。このような子どもたちに，周りの大人が「○○だからだよ」「△△っていうんだよ」などと答えを教えることも一手段ですが，子どもたちが自分たちで探究心をもって「どうしてなんだろう？」と主体的にかかわることも大切にしたいことです。

梅雨の時期，子どもたちに雨の季節をたっぷり味わってほしいと考え，季節の絵本（しぜん「かたつむり」やしぜん「あじさい」など）を保育室に設置しておきました。ある日，雨の中，男児数人がカタツムリ探しに出掛けました。草のところを探したり，友だちに聞いたりしてもなかなかカタツムリが見付かりません。すると，保育室に絵本があったことを思い出し，みんなで絵本を見に戻ります。絵本には，葉っぱの後ろにカタツムリがいることが記されていました。子どもたちはこれをきっかけについにカタツムリを見付けることができました。自分たちで発見できたことで，子どもたちの達成感，充実感もより大きなものとなったのではないでしょうか。

保育者として，子どもたちが自ら探究し，思いを膨らませ，主体的にかかわる姿を大切にしたいものです。